

緊急プラン(素案)

平成 21 年 11 月版

もくじ

1 . 緊急プランの背景	2
(1)箕面市の財政を取りまく状況	
(2)平成 20 年 11 月の財政見通し	
2 . 平成 20 年度決算の状況	4
(1)経常収支比率	
(2)基金残高	
3 . 最新の改革目標	5
(1)改革目標値の変化	
(2)平成 21 年度当初予算編成後の変化の要因	
(3)財源不足額解消の成果と目標値	
(4)経常収支比率改善の成果と目標値	
【参考資料】	9

箕面市緊急プラン（素案）について

本市では、子ども達の未来に負担を先送りせず、愛すべきまち箕面を次世代の子ども達に引き継ぐため、平成20年12月「箕面市緊急プラン(素案)」を策定しました。

「箕面市緊急プラン(素案)」は、平成25年度に「財源不足を解消」し、「基金依存体質から脱却」するとともに、当初予算において「経常収支比率100%以下(収支均衡)」に抑えることを目標としました。

「箕面市緊急プラン(素案)」の目標達成のために、副市長をリーダーとする「箕面市改革特命チーム“ゼロ”」を設置し、あえて市長の公約や政策的判断はもとより、過去からの経緯、関係団体の意向などを踏襲せず、可能な限りニュートラルな観点から900余りの事業を総点検し、市の裁量により改革が可能な事業、税金の使い道としてしっかりと議論をしておくべき事業などを改革項目とする改革チームの試案「ゼロ試案」を策定・発表しました。

昨年12月「箕面市緊急プラン(素案)」・「ゼロ試案」の公表以降、各方面での議論や様々な視点から多数のご意見をいただきました。これらご意見等を踏まえ、平成21年度当初予算編成においては、慎重にその実施の可否を検討し、政策的判断を行い実施可能な改革を行った結果、財源不足額を149億円解消し、経常収支比率の改善が一定図られました。

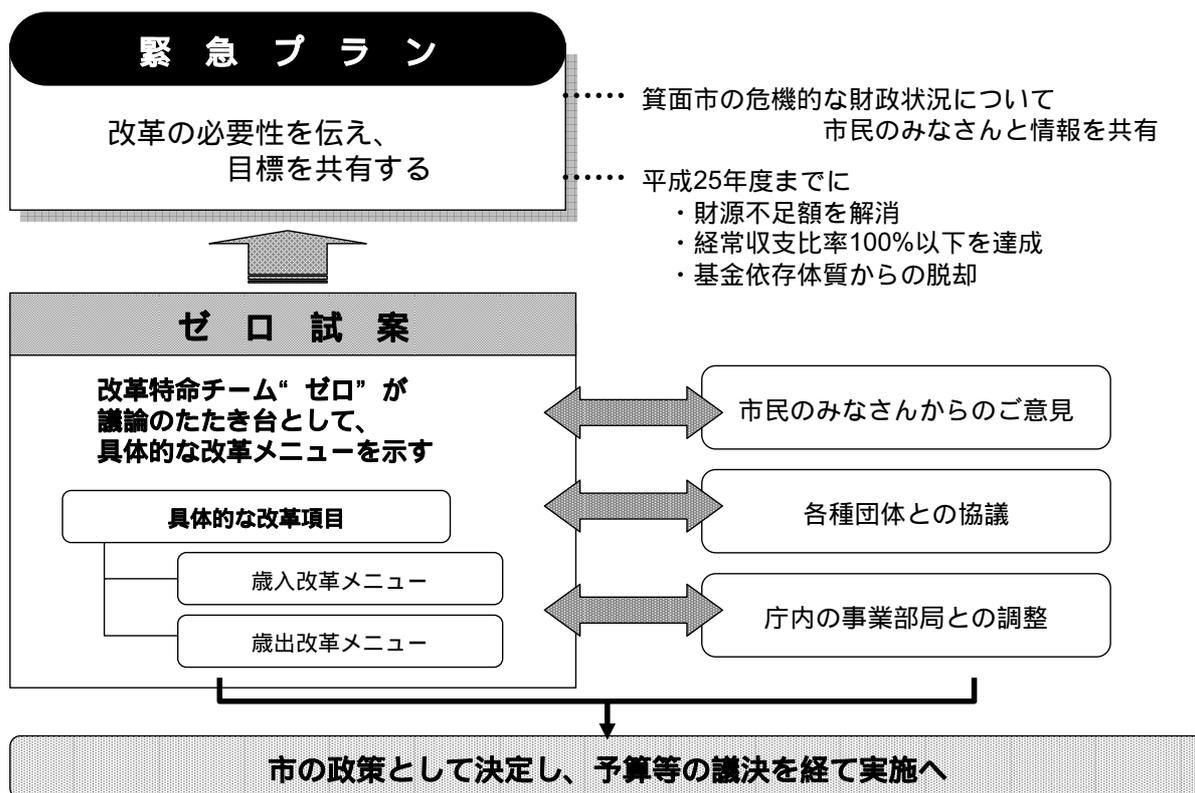
平成21年度には、国の緊急経済対策を最大限活用し、小中学校の耐震化など実施予定年度を前倒しすることにより、将来負担の軽減を図ってきましたが、一方で、昨年末の世界的金融危機に端を発した急激な経済状況の悪化により、市税収入の大幅な減収が見込まれると同時に、生活保護など社会保障費の増大、保育所待機児童の大幅な増加など、基礎自治体として喫緊にその対応を迫られる状況を招いています。

今回作成した「ゼロ試案 Ver.3」は、社会経済情勢の変化や、これまで市民のみならずからいただいたご意見を踏まえ、実現可能性やその効果を各改革項目について担当課と協議調整を行い、ゼロ試案 Ver.2でお示ししていた改革項目について、改革内容の変更、実施時期の見直し及び改革の見送り、並びに新たな改革項目を設定し提案しています。

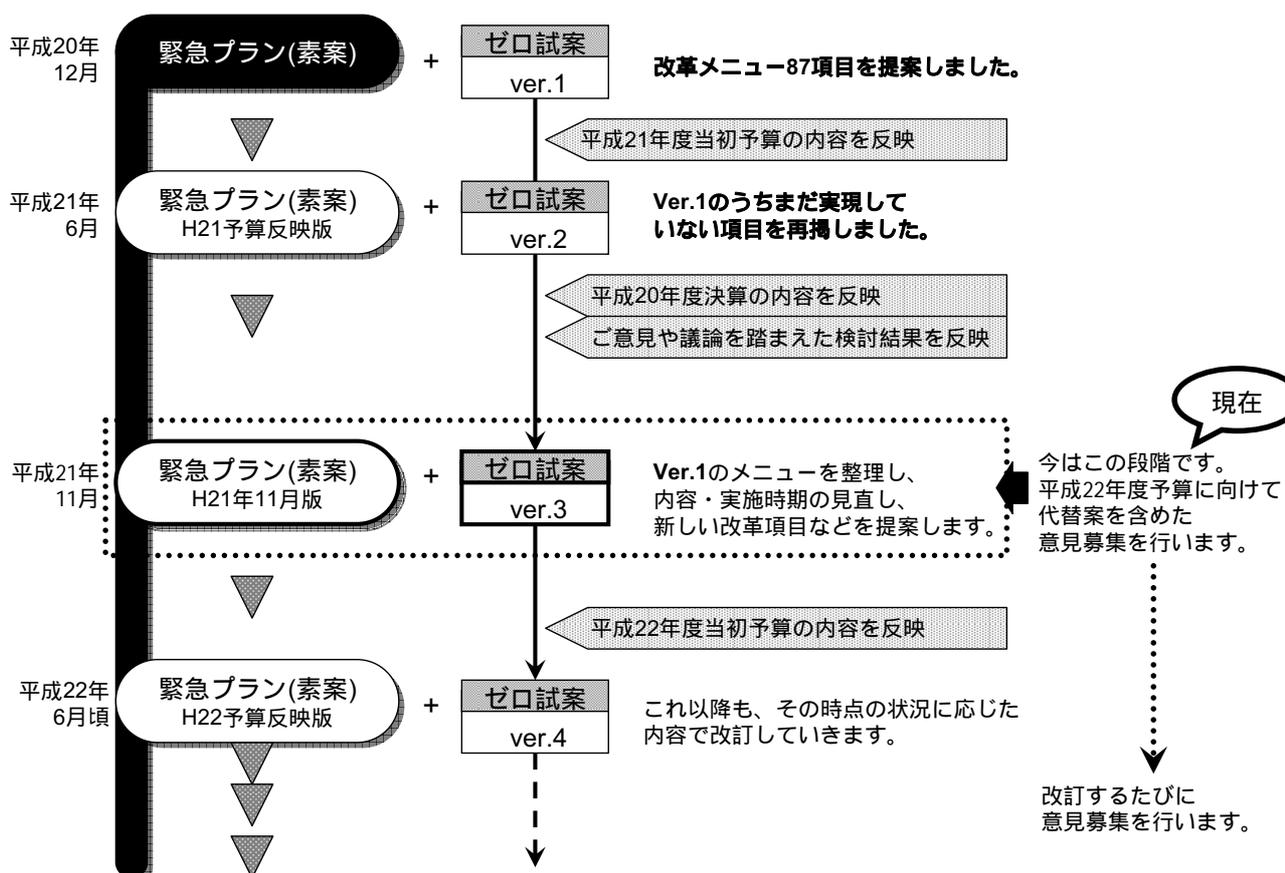
今後も、「ゼロ試案」をたたき台として、様々な議論を積み重ね、条例・予算(案)等を通じて市議会に提案し、改革内容を決定・実施していきます。

平成21年(2009年)11月
箕面市改革特命チーム“ゼロ”

● 緊急プランとゼロ試算



● 緊急プランとゼロ試算の改訂



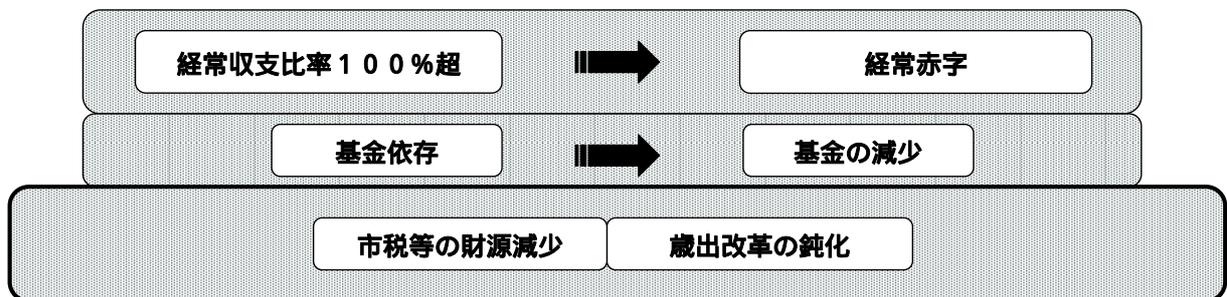
1.緊急プランの背景

めざす箕面の未来は・・・

子育てしやすさ日本一！
安心・支えあい最優先！
緑・住みやすさ最先端！



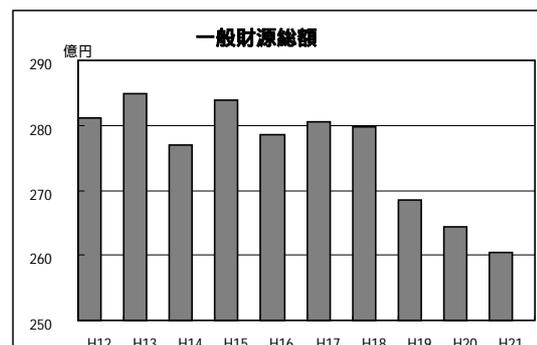
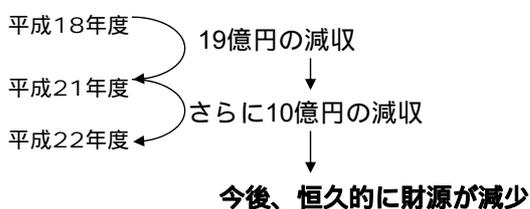
支えるべき財政の現状は・・・



(1) 箕面市の財政を取りまく状況

恒久的な財源不足

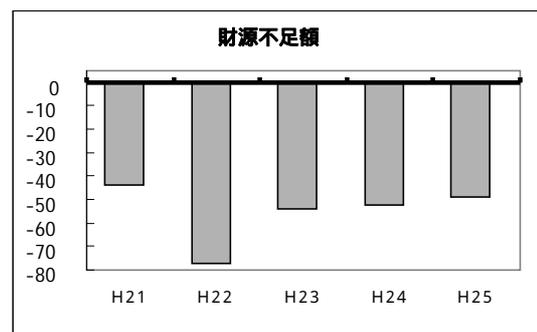
- 三位一体改革の本格実施等
 - 所得譲与税の廃止
 - 減税補てん地方特例交付金・減税補てん債の廃止
- 臨時財政対策債の廃止(平成22年度予定) などにより



基金に依存した財政構造

平成19年度決算は、財政健全化4指標については問題ないが、年度間の財源調整を行う財政調整基金の繰入がなければ実質2億円赤字

さらに基金に依存しなければ毎年50億円の赤字見込み

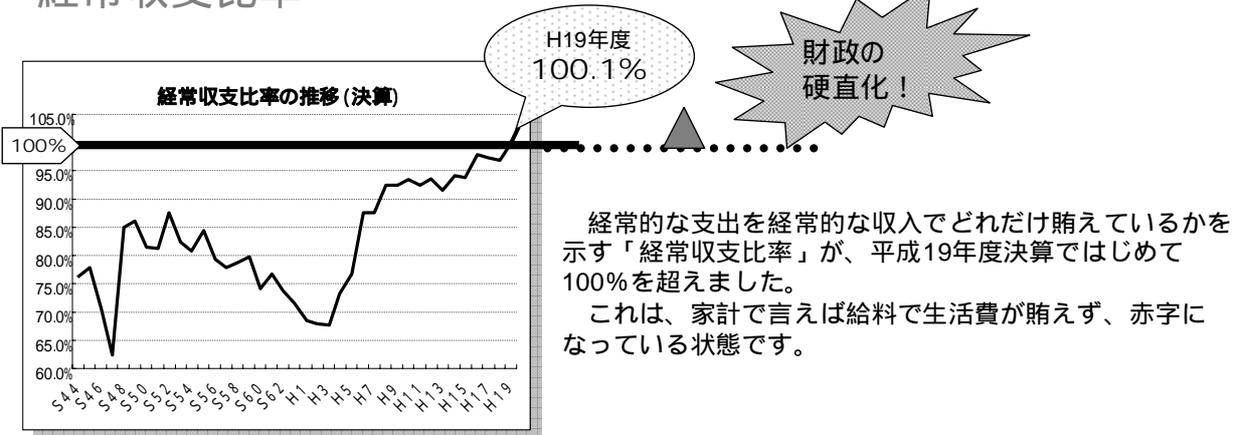


緊急に止血しなければならない状況

(2) 平成20年11月の財政見通し (緊急プラン(素案)作成の背景)

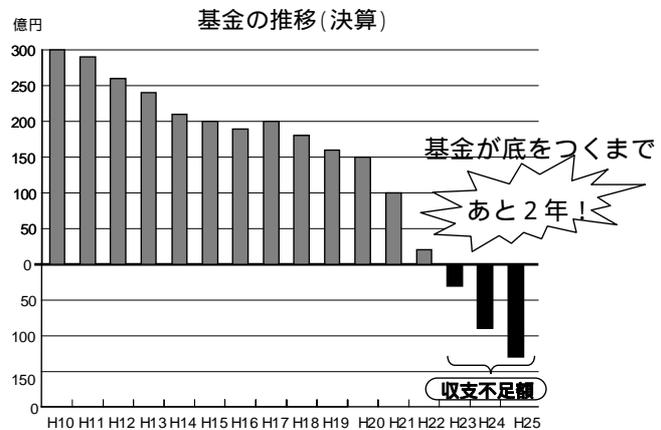
平成20年11月に今後5年間の財政見通しを試算したところ、次のような結果になりました。

経常収支比率



基金の状況

これまでどおりの制度が続き、今までと同じように支出が続けば、平成22年度には基金(市の貯金)が底をつくと見込まれました。



財源不足額の試算

平成25年度まで、毎年度の財源不足額を試算したところ、5年間累計で273億円もの財源不足となり、毎年度の経常的な支出が収入を20億円規模でオーバーすることがわかりました。

	H21	H22	H23	H24	H25	累計
財源不足額	43億円	74億円	55億円	52億円	49億円	273億円
経常収支比率	109.2%	111.6%	110.5%	110.0%	108.4%	

毎年経常的な支出が収入を約20億円規模でオーバー

(数字は平成20年11月現在)

緊急プラン

そこで、緊急プラン(素案)を作成し、次の目標を設定しました。

平成25年度
までに

財源不足額を解消

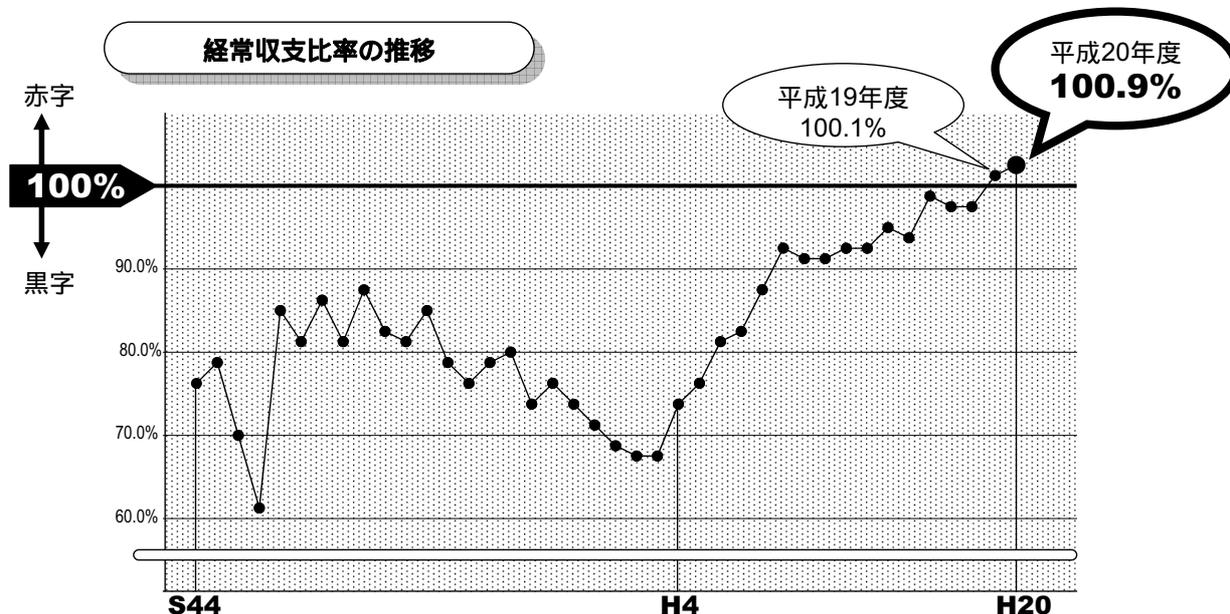
経常収支比率100%以下を達成

基金依存体質からの脱却

2. 平成20年度決算の状況

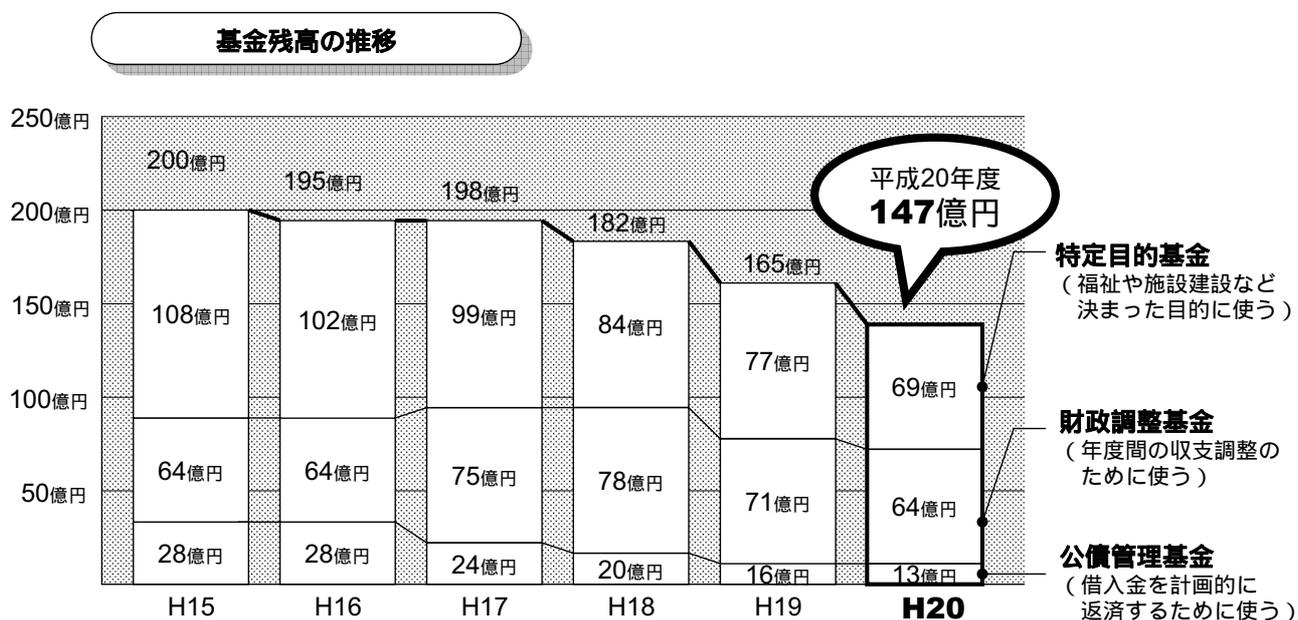
(1) 経常収支比率

経常収支比率は、平成4年度以降上昇を続け、平成19年度には統計が残る昭和44年度以降初めて100%を超え、平成20年度は**100.9%**に悪化しました。



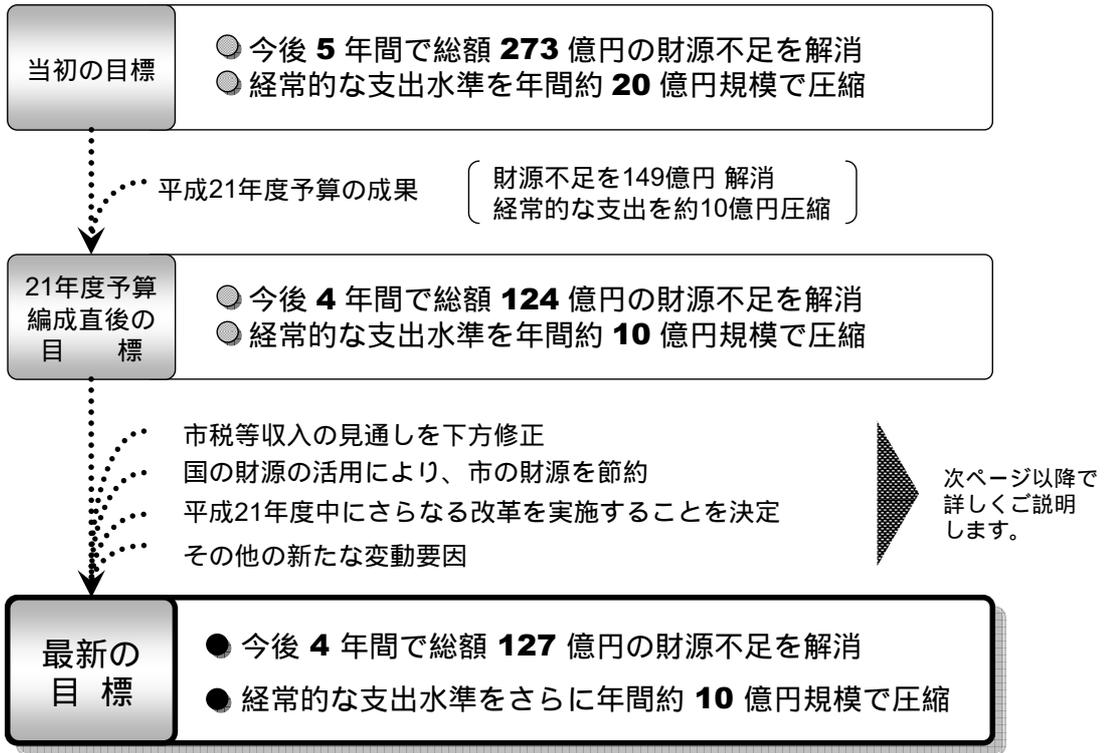
(2) 基金残高

「基金」は、市の貯金にあたるものです。
箕面市の基金残高は、ここ数年減り続けている状況で、平成20年度決算においても、前年度に比べて18億円減っています。



3. 最新の改革目標

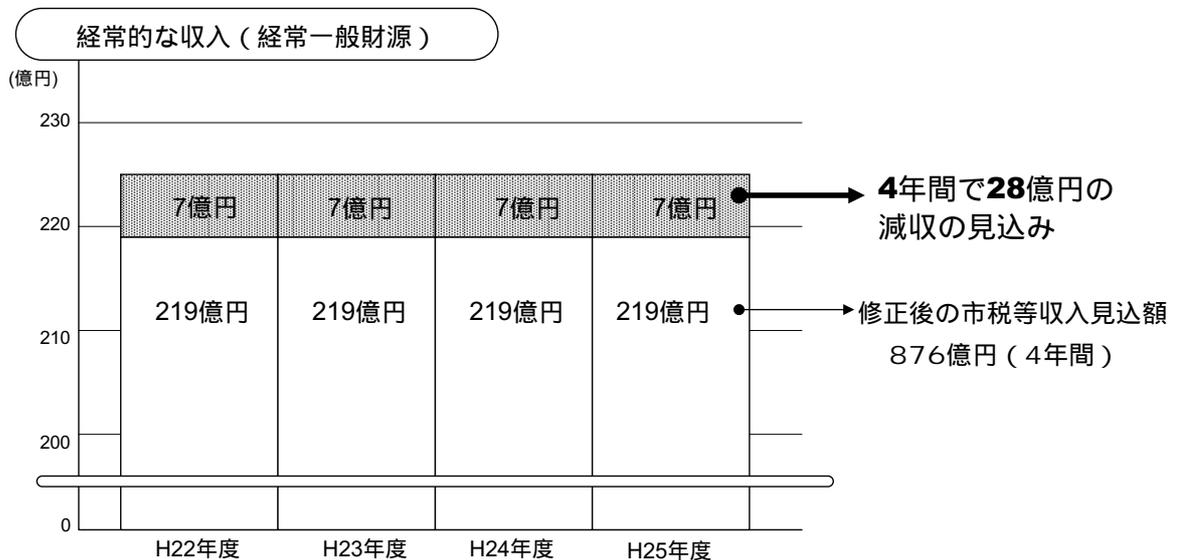
(1) 改革目標値の変化



(2) 平成21年度当初予算編成後の変化の要因

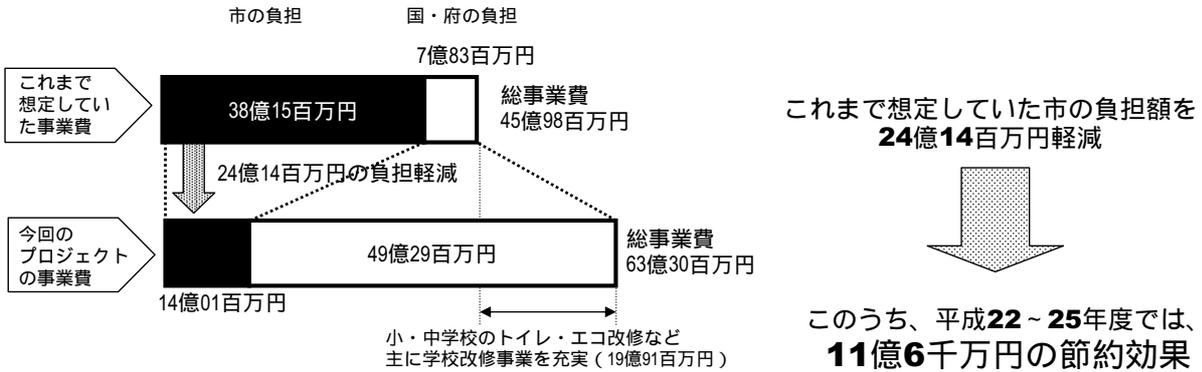
市税等収入の見通しを下方修正

平成20年度下半期以降の急速な経済状況の悪化を背景に、市税や地方譲与税などの収入が大幅に減少することが予想されます。
そのため、市税等収入の見直しを見直し、下方修正しました。



国の財源の活用により、市の財源を節約

国が平成21年度補正予算に盛り込んだ「緊急経済対策」を最大限活用し、本来、ほとんど市の財源でおこなう予定だった事業に、国の財源（補助金など）を投入しました。これにより、市の財源を大きく節約することができました。



国の財源を活用した事業

事業	主な実施内容
1 小・中学校施設大規模改修	校舎耐震化補強 / トイレのセミドライ(美装)化 / 太陽光発電設備 / 校舎・屋内運動場大規模改修
2 小・中学校ICT環境整備	全小・中学校パソコン教室のパソコンを更新 / 電子情報ボードなど情報教育環境整備
3 ユビキタスタウン整備	ICTタグによる児童等下校時の安全メール通知 公共図書館と学校図書館の統合システム整備
4 地域活性化・経済危機対策	割引特典付き地域商品券発行による商業振興 保育所・幼稚園の施設安全対策など

事業	主な実施内容
5 箕面駅周辺地区活性化	箕面駅前と溝道をアーケード、石畳、ガス灯風街灯などでレトロなまちなみに再整備
6 北部地域活性化	旧止々呂美小中学校跡地を活用し、親子交流と地域振興の核となる(仮称)ふるさと自然館を整備
7 緊急雇用創出基金事業	独居高齢者の実態把握 / 山間山麓部の不法投棄対策 / 障害者作業所等の授産品の販売促進
8 地域グリーンニューディール	保育所照明LED化・空調機省エネ化 / 公園灯LED化

平成21年度中にさらなる改革を実施することを決定

ゼロ試算ver.1で提案し、平成21年度当初予算で実施した項目について、もう一步踏み込んだ改革を実施することを決定しました。

ゼロ試算ver.1で提案し、平成21年度当初予算編成時には実施の方針決定まで至らなかった項目の一部について、その後、平成21年度中に実施することを決定しました。

改革の上積み

- 7 **人件費のさらなる見直し** 今後4年間の追加効果額 11億3千万円
- 当初予定していた改革 → 効果額：14億9千万円
- ・ 給与カット (管理職4.5%、管理職以外4.0%)
 - ・ 福利厚生費の抑制
 - ・ 職員数の削減
- さらに、人事院勧告に基づき 賞与・給与カットを実施 → 追加効果額：11億3千万円
- 68 **彩都地区小中一貫校の事業費のさらなる圧縮** 今後4年間の追加効果額 2億8千万円
- 当初予定していた改革 → 効果額：3億7千万円
- さらに事業費を精査 → 追加効果額：2億8千万円

改革の実施

- 58 **証明発行等手数料の改定** 今後4年間の追加効果額 7千万円
- 近隣他市並みを原則に改定 (平成21年10月から実施)
- 以下2項目は、平成22年度実施予定だったものを平成21年度から実施。効果額は平成21年度当初予算の成果に計上済み。
- 29 **情報システム経費の見直し**
- 行政情報、財務会計、住民情報などシステム運営の委託仕様などの見直し
- 40 **多文化共生社会推進共催事業の見直し**
- 共催事業の経費負担のあり方を見直し、市の支出分を2割削減

合計 15億円の改革効果

その他の新たな変動要因

今後4年間で

● 公債費の削減

4億円の節約効果

「公債費」とは、市の借入金の返済に充てるお金です。

当初の予想よりも金利の安い借入先となったことで、利息を安く抑えることができ、公債費を削減することができました。

今後4年間で

● 将来への投資の増

5億8千万円の支出見込みの増額

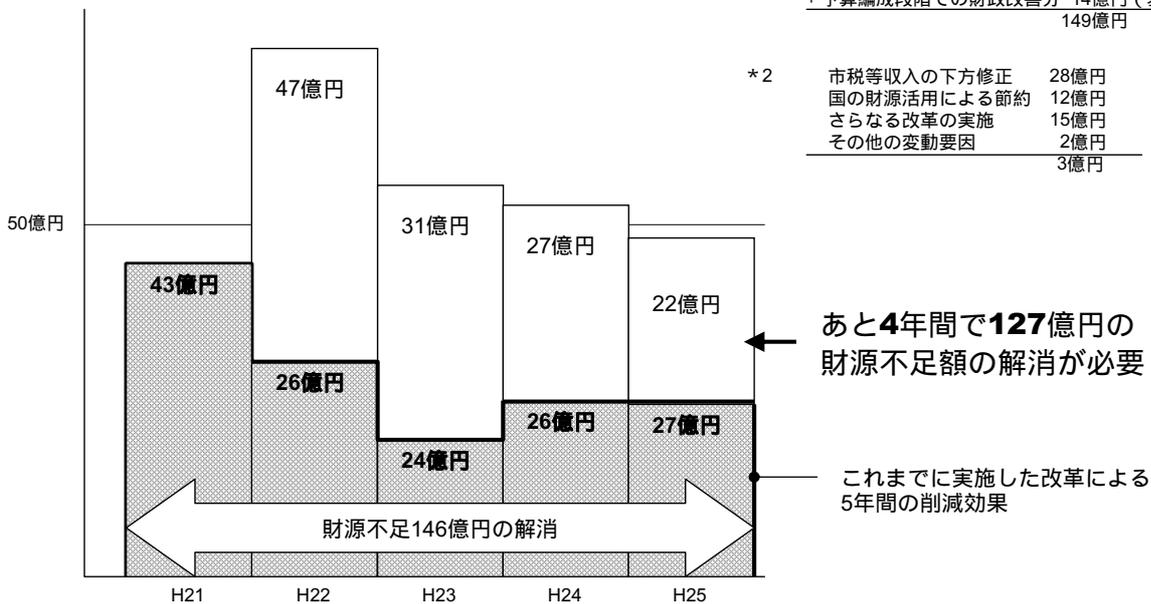
- ・ 急激に増加する保育所待機児童を解消するため、幼保施設の整備をおこないます。 2億8千万円
- ・ 箕面駅前を再整備し、市民が誇れる市の玄関口と観光客が回遊するまちにします。 1億9千万円
- ・ 市内バス路線網の充実を目指し、実証実験をおこないます。 8千万円
- ・ その他（小野原西区画整理事業への繰出など） 3千万円

(3) 財源不足額解消の成果と目標値

- 平成21年度予算編成の成果により、**149億円^{*1}**の財源不足額を解消しました。
- その後の状況の変化やさらなる改革により、財源不足額が差し引き**3億円^{*2}**悪化しました。

*1	歳入改革の効果額	9億円
	+ 歳出改革の効果額	126億円
	+ 予算編成段階での財政改善分	14億円（基金投入含む）
		<u>149億円</u>

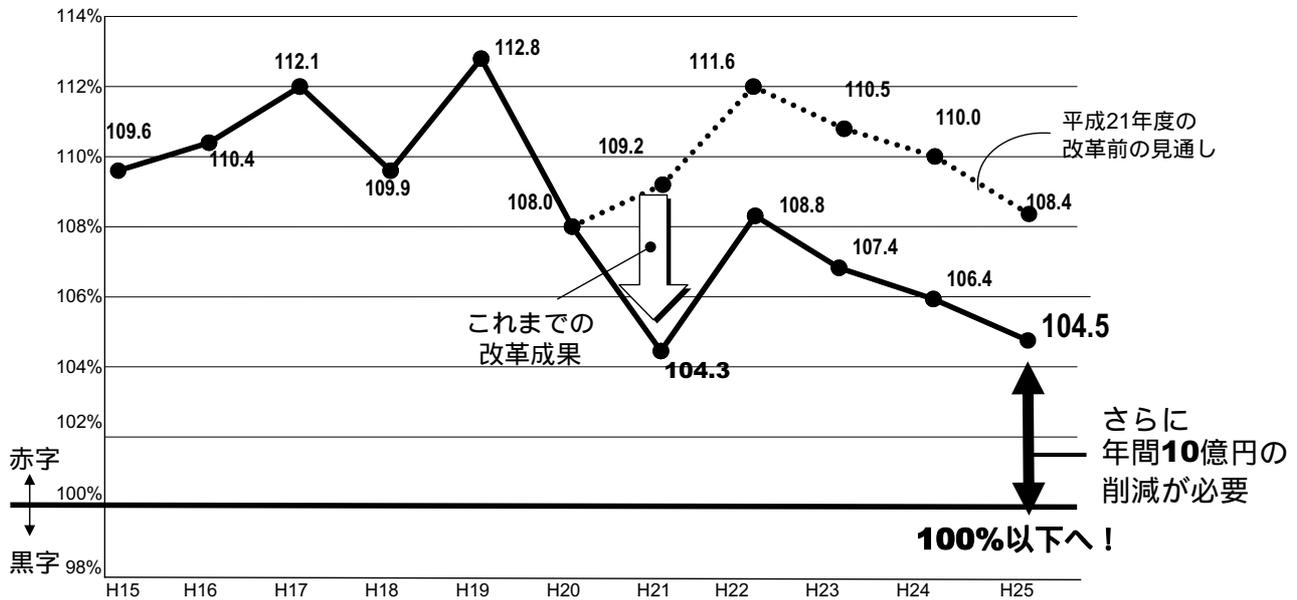
*2	市税等収入の下方修正	28億円
	国の財源活用による節約	12億円
	さらなる改革の実施	15億円
	その他の変動要因	2億円
		<u>3億円</u>



(4) 経常収支比率改善の成果と目標値

経常的な支出を経常的な収入でどれだけ賄えているかを示す「経常収支比率」は、平均約**3.7ポイント**改善しました。

*なお、市税収入の減による経常的な収入の減少と、国財源の活用及びさらなる改革による経常的な支出の減少がほぼ同額であるため、経常収支比率に影響はありません。)



子どもたちのための未来の箕面をつくりたい

子育てしやすさ日本一!
安心・支えあい最優先!
緑・住みやすさ最先端!



支えるべき財政の基礎を立て直す「緊急プラン」

実現するための方法を具体的な改革メニュー案で例示する「ゼロ試算」

- ゼロ試算は、議論のたたき台です。
- めざす未来の箕面を実現するという大きな目標を共有し、今後も、活発な議論をお願いします。

参 考 資 料

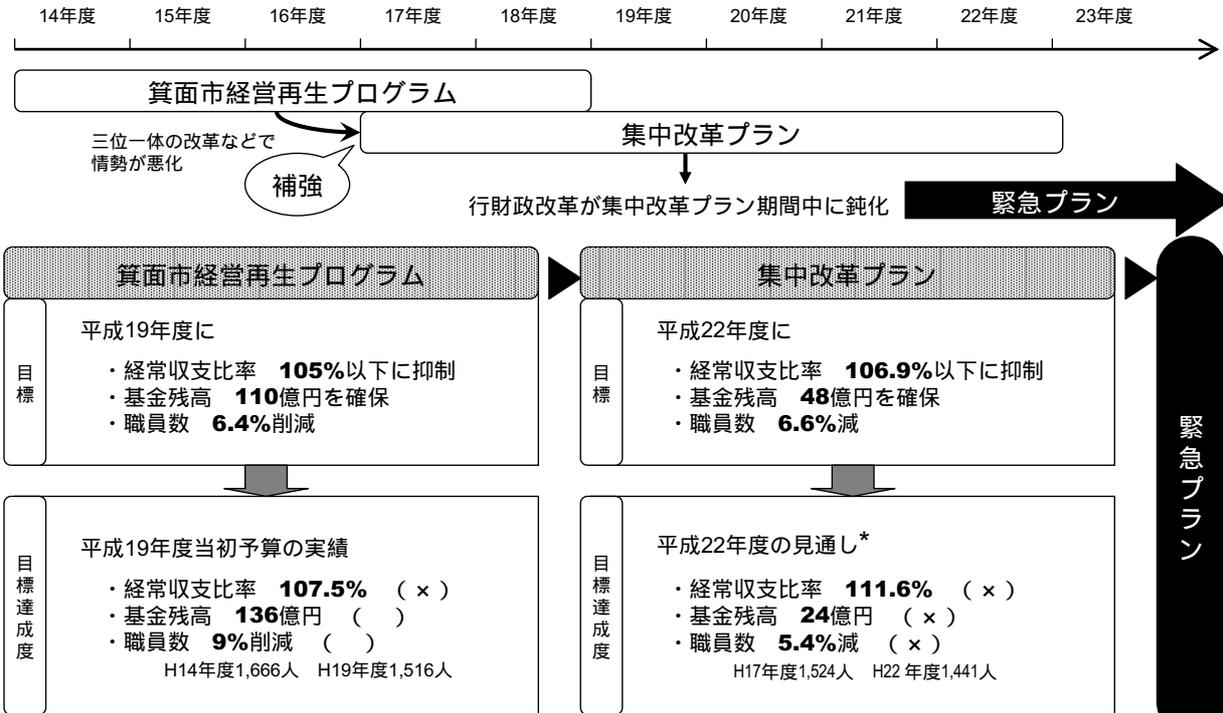
参考資料もくじ

- 参考1 これまでの行財政改革の取り組み
- 参考2 新市街地プロジェクトの概要
- 参考3 未来への第一歩 重点施策への投資（1）安心・支え合い最優先
- 参考4 未来への第一歩 重点施策への投資（2）子育てしやすさ日本一
- 参考5 未来への第一歩 重点施策への投資（3）緑・住みやすさ最先端

これまでの行財政改革の取り組み

参考1

箕面市では、平成8年度に行政改革大綱を策定し、財政改革に取り組んできました。14年度には経営再生プログラムを策定し、取り組みを強化しています。

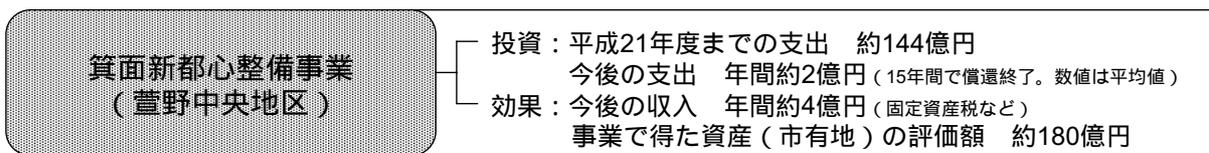


*平成22年度の財政見通しは、平成20年度2月時点、緊急プラン(素案)を実施しない場合

新市街地プロジェクトの概要

参考2

■ 箕面市が実施主体になっているもの



■ 箕面市が実施主体でないもの → 箕面市は、土地区画整理事業に支出していません。市は、生活に必要な学校や下水道整備を行います。



市の関連事業への支出(学校・下水道など)：平成21年度までの支出 約2億円
 今後の支出 年間約3.5億円 (35年間で償還終了。数値は平均値)
 市の税金による収入(固定資産税など)：今後の収入 年間約9億円(住民税を除く)



市の関連事業への支出(学校・下水道など)：平成21年度までの支出 約6億円
 今後の支出 年間約1.7億円 (31年間で償還終了。数値は平均値)
 市の税金による収入(固定資産税など)：今後の収入 年間約8億円(住民税を除く)

未来への第一歩 重点施策への投資（1）

参考3

平成21年度予算では、緊急プラン(素案)による削減だけでなく、重点施策の充実も行っています。

安心・支え合い最優先

公共施設の耐震化 3億4千万円

- ・避難所となる学校の耐震化を計画的に実施
- ・グリーンホールの耐震補強設計とエレベーター設置に着手

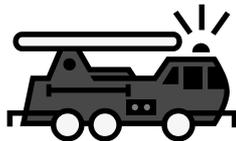
全小中学校のアスベスト対策の完了 1千2百万円

- ・法令改正に伴って厳しくなった基準に照らし、唯一基準値を超えた東小学校について対策を完了



消防力の充実強化 1億3千7百万円

- ・NOx規制、PM法の使用期限に伴い、消防車両5台を更新



阪急牧落駅バリアフリー化 1億2千2百万円

- ・阪急牧落駅のエレベーター設置等に着手
(阪急箕面線全線のバリアフリー化を完了)

支え合う地域活動の支援・促進 6百万円

- ・地域への補助金を統合・拡充して、地域の実情に応じて使い道を決められる「地域交付金」を創設
- ・子どもたちの見守りと地域の防犯力を高めるため、地域を巡回する企業や市民団体との連携を推進



たくさんの目で子どもたちを見守ります。

未来への第一歩 重点施策への投資（2）

参考4

平成21年度予算では、緊急プラン(素案)による削減だけでなく、重点施策の充実も行いました。

子育てしやすさ日本一

未来子ども基金の創設 1億5千万円

- ・未来を担う子どもたちが健やかに成長するための事業を推進する新たな基金を創設

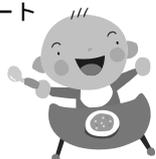
子育て世代への医療費支援の拡充 3億2百万円

- ・子どもの医療費助成の対象年齢を大幅に拡大し、所得制限も撤廃
- ・妊娠健康診査への助成を5回から14回に拡充



きめ細やかな子育て支援の充実 4百万円

- ・生後4か月までの赤ちゃんのいる家庭を保育士などが全戸訪問し、乳児と保護者をサポート



生徒指導の充実 4千万円

- ・市内の全中学校に、箕面市独自で生徒指導の支援講師配置完了
- ・小学校にも追加配置

学校施設の学習環境の向上 7千8百万円

- ・市内の全中学校のすべての普通教室にエアコン設置
- ・市内の全中学校のコンピュータ教室のすべてのコンピュータを更新



小中一貫教育の推進 3千1百万円

- ・森町に続き、彩都で施設一体型小中一貫校の建設に着手(大阪府では箕面だけ)
- ・その他の小中学校でも、校区連携型小中一貫教育を推進

「緊急プラン(素案)平成21年度当初予算反映版」において、の予算額が誤っておりました。お詫びの上訂正いたします。

未来への第一歩 重点施策への投資（3）

参考5

平成21年度予算では、緊急プラン(素案)による削減だけでなく、重点施策の充実も行いました。

緑・住みやすさ最先端

山なみ景観の保全・育成

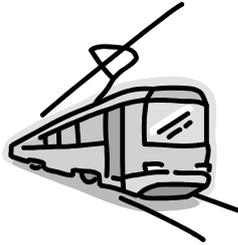
- ・住宅地に近接する山々について、箕面市独自の保全手法の具体的検討に着手

「（仮称）みどりファンド」の創設

- ・住宅地の緑を守り育てるための助成制度の検討に着手

北大阪急行の延伸 5千5百万円

- ・関係者との協議を加速
- ・鉄道延伸用の資金である「交通施設整備基金」への積み立てを15年ぶりに再開



市内バス路線網の充実に向けた取り組み

- ・Mバスと路線バスとの連携・一体化を検討
平成22年度に社会実験を実施する準備に着手
- ・ノンステップバスの導入支援

北大阪急行延伸がもたらす まちの活気と利便性

新駅ができると・・・

駅と駅を結ぶ
バスネットワーク

東西を結ぶバス網の
整備が加速

徒歩圏が広がる

新駅周辺の活性化
船場が活気を取り戻す

CO2の削減

- ・混雑する新御堂筋線の渋滞解消
- ・自動車から電車・バスに乗り換え